

平成28年度 東毛地区小学校体育科授業研究会 レポート

○日時：11月17日(木)

○会場：館林市立第七小学校

○単元名：体育授業プログラム ボール運動 (ベースボール型:ティーボール)

○指導者：杉山宏之 教諭

今年度の東毛地区の授業研究会は、館林市立第七小学校の杉山先生が授業を提供してくださいました。今回、取り上げていただいたティーボールは、体育授業の充実のために、群馬県教育委員会、群馬大学、群馬県小学校体育研究会並びに県下小学校が連携して作成した「体育授業モデル作成事業」における、体育授業プログラムによる授業を公開していただきました。



素早く道具を用意して、グループごとに、大きな声を出して、準備運動を行っていました。



1分間で何回キャッチボールができたかや、失敗せずに何往復キャッチボールができたかなど、ゲーム的要素を取り入れていました。



ドリルゲーム。打球が遠くへ飛ぶように強く打つことを意識して練習していました。



内野と外野の動きを考えながら楽しく行うようにしようと、本時のめあてを確認しました。



攻撃側が投げ込んだボールを、外野が捕球し、ボールを最寄りのアウトゾーンの内野に素早く投げて、熱心にタスクゲームを行っていました。



試合前に、ホワイトボードを使って、守備位置や作戦を確認し合いました。



ドリルゲームでは、打者担当と走者担当の2人1組になって、内野や外野の守備位置を考えて打ち、走者は得点を得るために、常に全力で走塁を行っていました。

6対6の内野・外野連係のメインゲームを行いました。守備側は、進塁を阻止しようと声を掛け合って、内野と外野の連係がよくできていました。



学習カードに記録後、杉山先生から児童へ、本時のめあてが達成できたかを聞いている様子。攻撃側の得点を最少にするために、内野と外野がよく動いていたことを発表していました。

本時を振り返って、学習カードに記録をしている様子。成果や課題について、理由も書いていました。



班別協議の様子。参加者が、6つの観点（教師の相互作用、学習環境、他4観点など）ごとに話し合いを行いました。授業者も各班を回りながら、熱心に討議に参加されていました。



各班の代表者による発表の様子。参観者が観点ごとに話し合っ、良かった点や、改善点について発表し、熱心な討議が行われました。

研究協議の最後に、館林市教育委員会の高田指導主事より、「単元構想の工夫」、「意欲・技能を高める工夫」、「運動量の確保」、「教材・教具の工夫」、「教師の人柄」などについて、講評していただきました。また、「ゲームの意義」を明確に伝えることや、「安全を意識した授業」を行っていくことが大切であることを指導していただきました。

この度の公開授業及び研究会は、よりよい体育授業の実践につながる貴重な経験となりました。授業を提供して下さった杉山先生、そして、会場を提供して下さった館林市立第七小学校の先生方、研究会開催にご尽力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

(文責: 桐生市立西小学校 清水貴彦)